

大麦管理情報 第1号(平成29年産麦)

排水対策の徹底と適期播種作業による初期生育を確保しましょう！

1. 排水対策の徹底～乾いていないほ場に播種すると苗立ち不良に!!～

- ①稲刈り後、直ちに深さ30cm以上の額縁排水溝と7～8mの間隔で基幹排水溝を設置しましょう。
- ②水吐尻と排水口をしっかりとつなぎましょう。
- ③サブソイラを用いて心土破碎を行いましょ。
- ④ほ場を十分に乾かしてから、10月15日頃までを目処に播種しましょう。
- ⑤水口はしっかり止めましょう。

湿害による
出芽不良



2. pHの矯正

- ・耕起前に石灰質資材を 100kg/10a 以上施用しましょう。
- ※土壌pHが低い(6未満)と茎数の増え方や雑草が繁茂しやすくなります。

3. 種子消毒

- ・薬剤による消毒⇒「ベンレート水和剤 20」を種子粉衣(種子重量の0.5%粉衣)
- 例 種子 10 kgに水 200mlを加え湿らせてから、薬剤 50gを加え粉衣しましょう。

4. 基肥の施用 ～播種様式の応じた施用量を遵守しましょう～

施肥・播種様式	肥料名	施肥量(kg/10a)
肥効調節型体系のドリル播き	LP大麦48号	40～45
分施肥体系のドリル播き	BB 特15号	32
分施肥体系の散播	BB 特15号	40

5. 播種時期と播種量

播種は10月上旬を中心に10月15日頃までに終わらしましょう。

- ① ほ場が十分に乾いた状態で、耕起から播種までの一連の作業を1日で行いましょう。
- ② 播種時期に応じた播種量を守り目標苗立数を確保しましょう。

播種時期	目標苗立数 (本/m ²)	播種量(kg/10a)	
		ドリル播き	散播
9月26日～30日	140	6	6.5
10月1日～10日	150	6.5	7
10月11日～15日	200	8.5	9

※ドリル播きは、条間25cm、播種深度3cmを目安に播種しましょう。



雑草防除で初期生育を確保

6. 雑草防除 ～雑草の多いほ場では、除草剤散布をしましょう!!～

除草剤名	使用時期	使用量	使用方法	適用雑草
トレファノサイド粒剤 2.5	播種後発芽前	4～5kg/10a	土壌表面散布	1年生雑草
トレファノサイド乳剤	播種後発芽前 (雑草発生前)	200～300ml/10a (希釈水量 100L)	土壌表面散布	1年生雑草

※適用雑草において、ツククサ、カヤツリグサ、キク・アブラナ科を除く